

平成30年北海道胆振東部地震 に係る復旧・復興等の状況



平成30年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」は、北海道がかつて経験したことがない「震度7」を観測し、各地に甚大な被害をもたらしました。

これは、北海道胆振東部地震からの一日も早い復旧・復興に向けた北海道開発局における活動記録です。



国土交通省 北海道開発局
「北海道開発局 復興・強靱化推進本部」

目次

地震発生

- ◆北海道内で史上初の観測 震度7 1
- ◆大規模崩落 明治以降最大 2
- ◆激震の痕跡 3
- ◆生産空間への被害 4
- ◆道路に段差 5
- ◆堤防に亀裂 6

緊急対応

- ◆防災ヘリから被災調査 7
- ◆早急に救援ルートを確認 道路啓開 8
- ◆迅速な緊急復旧により3日後に通行止め解除 9
- ◆地域の建設業者が昼夜を問わず緊急復旧に取り組む 10
- ◆安全を確保し最大限の緊急復旧を実施 11
- ◆24時間体制で緊急復旧、節電の取組 12
- ◆斜面崩壊で発生した大規模な河道閉塞 13

被災地支援

- ◆被災地に寄り添う支援 14
- ◆開発局職員が地元に着したサポートを展開 15
- ◆TEC-FORCEが全国から被災地に集結 16
- ◆道外からも緊急救援 17
- ◆被災地を支援する「道の駅」「給水活動」の取組 18
- ◆緊急対応「タイムラインの取組」「橋梁の緊急点検支援」 19
- ◆専門家による高度な技術支援 20

復旧・復興に向けて

- ◆復旧・復興・強靱化に向けて 21
- ◆強靱化推進 災害査定、直轄河川の復旧 22
- ◆強靱化推進 直轄事業による復旧支援 23
- ◆産業支援 地域農業の持続・復興に向けた取組など 26
- ◆産業支援 苫小牧港直轄災害復旧状況 28
- ◆産業支援 海外輸出を通じた復興支援、パネル展開催 29
- ◆観光支援 北海道観光の復興に向けて 30

復興応援

- ◆被災地を復興応援 31
- ◆厚真町 32
- ◆安平町 33
- ◆むかわ町 34

平成30年9月6日(木) 03時07分

地震発生

北海道内で史上初の観測

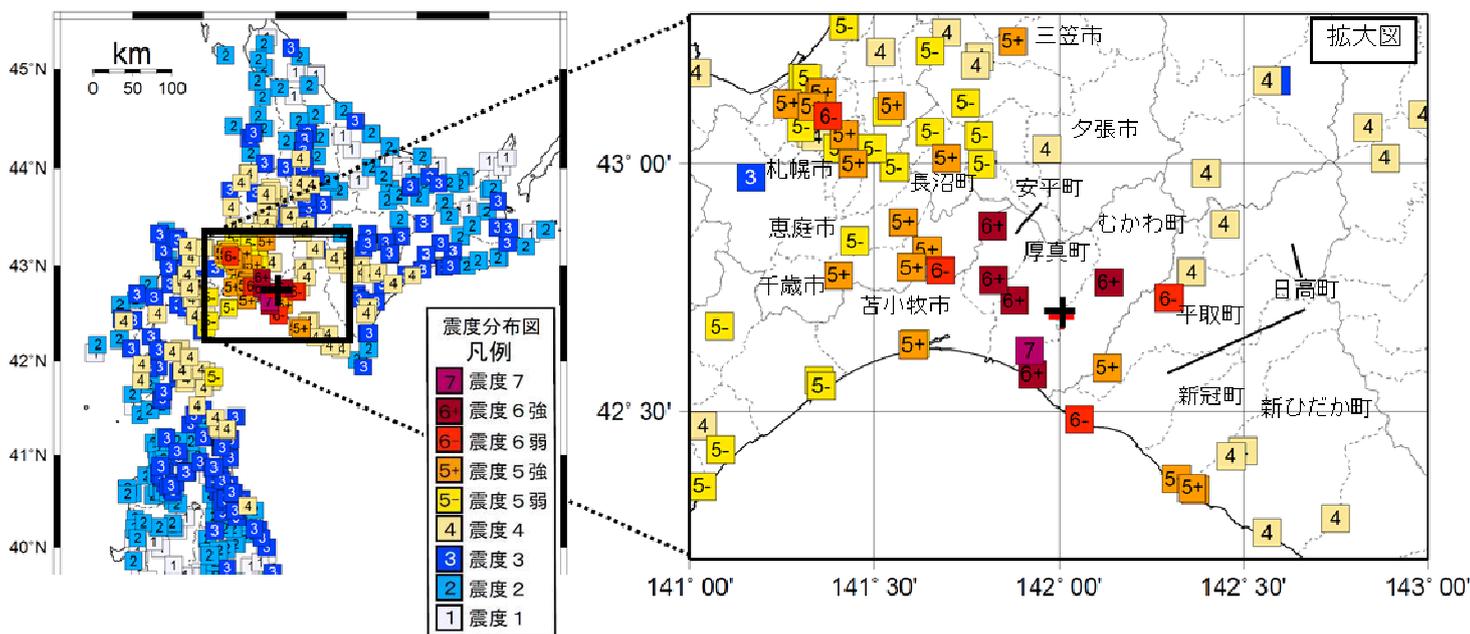
震度7を観測

広範囲にわたり激しい揺れが発生

平成30年9月6日の地震(M6.7)の発生以降、11月30日24時現在の地震の回数は、最大震度7が1回、最大震度5弱が2回、最大震度4が21回、最大震度3が35回、最大震度2が85回、最大震度1が181回、計325回になっています。

この一連の地震活動により、胆振東部地方を中心に各地で甚大な被害が発生しました。

震度分布図



地震概要

発生日時 平成30年09月06日(木)03時07分
震源 胆振地方中東部、深さ37km(暫定値)
規模 マグニチュード6.7(暫定値)
地震名称 平成30年北海道胆振東部地震
主な震度 震度7 北海道厚真町
震度6強 北海道安平町、北海道むかわ町
震度6弱 北海道千歳市、北海道日高町、北海道平取町、北海道札幌市東区

その他、北海道から中部地方の一部にかけて震度5強～1を観測。 1

地震発生

大規模崩落

崩壊面積約44.0km²(札幌ドーム約144個)

平成16年新潟県中越地震(既往2位)の約3.9倍

明治以降 最大

厚真町高丘地区



厚真町富里地区

前例の無い振動は、
各地に甚大な被害をもたらした

この地震により、死者44人(うち災害関連死3人)、負傷者785人、住家全壊491棟、住家半壊1,816棟などの被害が発生(令和2年9月1日現在、北海道総務部危機対策課資料より)。

震度7と震源地に近い厚真町、安平町、むかわ町を中心に、最大時には1万6千人以上の方々が避難生活を強いられることとなりました。

激震の痕跡

ブラックアウトにより、
生活に支障が生じた

地震発生直後に起きた北海道全域の停電「ブラックアウト」により、断水や交通機能の麻痺なども相まって道民生活や経済活動にも大きな支障が生じました。

地震発生

震源地に近い勇払東部地区(厚真町、むかわ町)では、厚真ダムを含め地区全体にわたり農業水利施設等に甚大な被害が生じました。

生産空間への被害

日本の食料供給基地 農林関係の被害状況

◆被害額は1,140億円

※ 農林水産省(令和元年12月11日時点)

- ①農地・農業用施設への土砂堆積や損傷(580億円)
- ②林地の大規模崩壊や林道の損傷(475億円)
- ③農作物等の被害(85億円)

苫小牧港 液状化

沈下

緊急点検の結果、苫小牧港各所で液状化やそれによる沈下の発生を確認。

物流や支援活動への影響を最小限にとどめるため、国際コンテナターミナルなどの応急復旧や、支援船の入港岸壁の調整など早期の対応が求められました。

地震発生

段差 30cm

路面が沈下し段差が発生

道路に段差

地震発生直後から、国が管理する日高自動車道(沼ノ端西IC～日高厚賀IC)を全面通行止めとし、地震時点検を実施。その点検結果により路面変状による段差等が確認されました。

段差 50cm

地震発生

堤防の亀裂や沈下が発生

堤防に亀裂

国が管理する鵜川水系鵜川においても、河川堤防の縦・横断亀裂など24か所で被災が確認され、次の出水に備え、一刻も早い緊急復旧工事が求められました。

(その後、平成30年10月5日の余震で1箇所の新被災が新たに確認されています。)



河川堤防の変状の確認を早急に実施

防災ヘリから 被災調査

緊急対応



防災ヘリで被災状況を調査し、リアルタイムで情報を提供

被災状況の全容を把握し早期復旧の参考にするため、北海道開発局保有の「ほっかい号」により、立入困難な大規模土砂崩落の被災現場等を上空から調査。

また、可搬型の衛星設備(ku-sat)を設置し、被災した自治体へリアルタイムでの被災状況映像を提供するなど迅速な対応に役立てました。



可搬型の衛星設備
(ku-sat)の設置状況

緊急対応

緊急復旧を実施するため 早急に救援ルートを確認



厚真町道 幌里本線

被災からおおむね5日以内に、地域の最低限のアクセスを確保

地震発生後、被災自治体と北海道開発局が調整し、緊急車両を通行可能とするために必要最低限の倒木処理や路面段差の解消などを早急に行う「道路啓開」を建設業者の協力を得て実行。救急車や警察、自衛隊などの緊急車両が通行可能になりました。

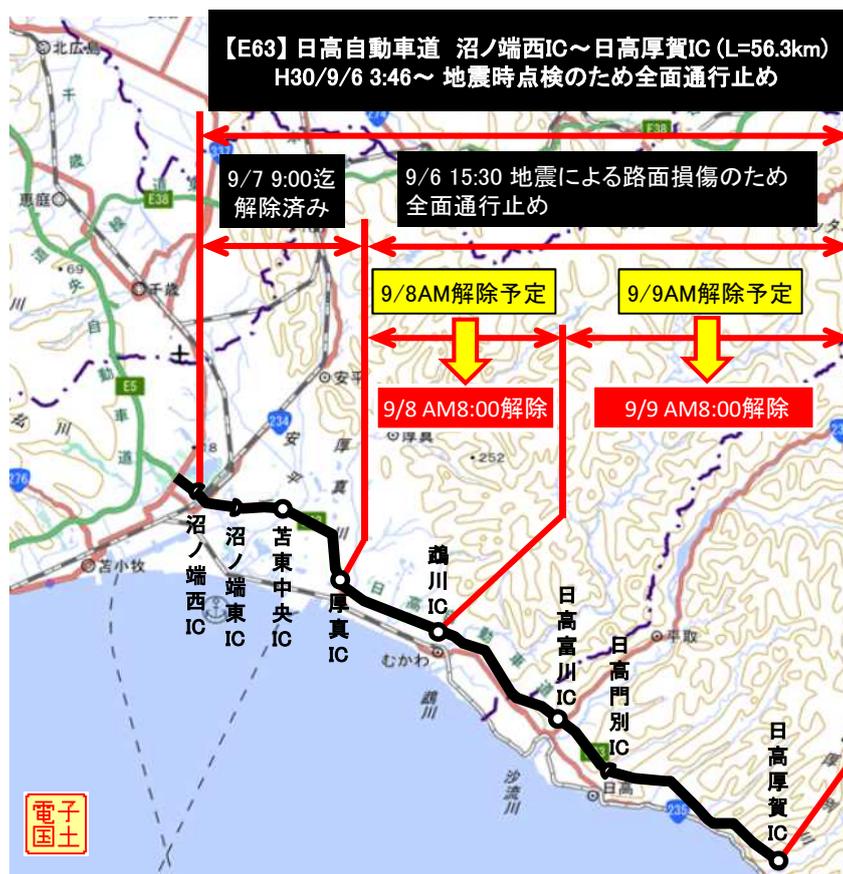
道路啓開



迅速な緊急復旧

緊急対応

により3日後に通行止め解除



▲緊急車両の通行状況

早急な点検を行い平成30年9月6日夜には緊急車両の通行が可能と判断。被災地の復旧支援に貢献。

また、被災直後から、路面変状の緊急復旧計画を迅速に立案し、9月7日の16時30分には、段階的な通行止め解除予定について報道発表し、昼夜にわたり緊急復旧工事を実施し、計画どおりに通行止めを解除しました。

▲段階的通行止め解除予定の公表

緊急対応

地域の建設業者が 昼夜を問わず

緊急復旧に取り組む

河道閉塞した厚真川の緊急復旧作業

災害発生直後から被害の拡大を防ぐため、重機による流木や土砂の撤去など、過酷な災害現場の中で昼夜を問わず緊急復旧に取り組みました。建設業者は、地域の守り手としての重要な役割を担っています。



安全を確保し 最大限の

緊急復旧を実施

関係機関との連携により迅速な復旧作業に取り組む

厚真ダムに隣接する山腹が崩壊し、余水吐(大雨時に洪水を流す水路)に倒木や土砂が流入(最大で水路断面の半分程度)。

自衛隊の協力も得て、余震に気を付けながら、水位計設置、倒木・土砂除去を実施しました。

余水吐への流入土砂撤去状況



被災直後の余水吐



緊急復旧後



緊急対応

24時間体制で 緊急復旧



工事監督



次の台風を前に、河川堤防の緊急復旧を完了

地震による河川堤防の変状が確認された鵜川水系鵜川では変状が大きい4か所において、一刻も早い応急対策の完了を目指して、建設業者の協力を得ながら24時間体制で緊急的な復旧工事が進められ、おおよそ6日間で全ての工事を完了させました。

北海道開発局は、組織を挙げて節電に取り組みました

節電の取組

平常時



北海道胆振東部地震による発電施設の損傷を原因とする電力供給能力の低下を受け、北海道開発局は、管理する道路やトンネルの照明減灯の工夫、全道に立地する庁舎の節電の徹底等、組織を挙げて節電に取り組みました。

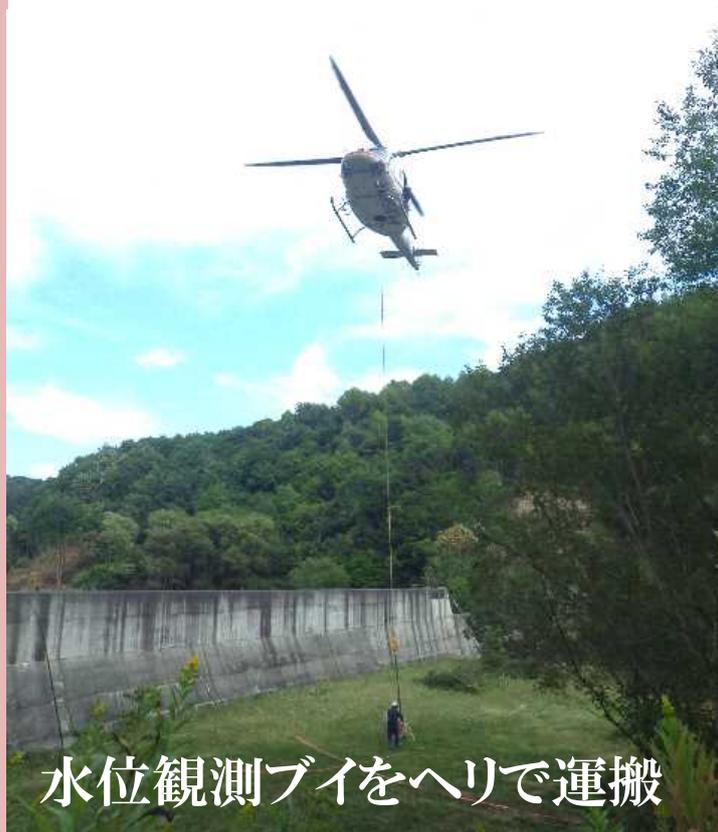
斜面崩壊で発生した大規模な

北海道勇払郡厚真町日高幌内川
(H30.9.26)

河道閉塞

水位計、カメラを設置し監視・観測体制を構築

日高幌内川では、右岸側の尾根部(幅約400m)が地震により滑動し、約1,100mに渡って河川を閉塞させる大規模な河道閉塞が発生したため、緊急的に監視・観測体制を構築しました。



被災地
支援

被災地に

寄り添う支援



幹部職員の派遣で被災自治体の技術支援を強化

被災自治体では、多岐に渡る災害対応が求められる一方で、技術職員の人数が限られています。国土交通省では応急対策や復旧に向けた助言を行い、現地で活動するTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)を統括するため、本省及び開発局の幹部職員を直ちに被災自治体に派遣し、首長等へ被災状況の報告や応急復旧に向けた技術支援を行いました。



災害対策関係機関調整会議
(厚真町長室)



国土交通大臣による被災地視察

開発局職員が 地元に着した

サポートを展開

リエゾン派遣

災害発生直後からリエゾン(現地情報連絡員)を被災した自治体の災害対策本部に派遣。被災状況や必要な支援内容等の情報把握、北海道開発局との連絡・調整を行いました。災害発生後、40日間で延べ812人を派遣しました。

水土里(みどり)災害派遣隊派遣



北海道開発局農業部門では、職員により構成される水土里(みどり)災害派遣隊を被災地に派遣。自治体に代わり、農地・農業水利施設の被害状況調査及び災害復旧事業の技術的指導の支援を実施しました。

平成30年9月6日活動開始 延べ人数 2,722人 (平成31年3月末まで)

被災地
支援

TEC-FORCEが

全国から被災地に 集結延べ3,064名

災害対応のスペシャリストが全力で被災地を支援に

被災状況の全容把握や被災地の早期復旧に向けた技術的支援を行うため、全国からTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)が被災地に集結。

災害発生直後から東北・関東・北陸・中部・中国・四国・九州地方整備局等の職員延べ3,064人が派遣され、被災地の早期復旧に取り組みました。

全国から集結したTEC-FORCE



厚真町町道被災箇所点検
(関東地方整備局)

調査結果取りまとめ(東北地方整備局)



土砂災害危険箇所点検
(北陸地方整備局)



調査結果報告書手交式(厚真町)
-北海道開発局、
東北・関東・北陸・中部地方整備局 16

道外からも

被災地
支援



苫小牧港 支援物資の荷下ろし

はくさん 北陸地方整備局の船「白山」が救 援物資の運搬や入浴支援を実施

被災地支援のため北陸地方整備局所属の大型浚渫兼油回収船「白山」が平成30年9月8日に苫小牧港に支援物資を運搬するとともに、同港において入浴・洗濯・給水支援等を9月16日までの9日間にわたり実施しました。



関東地方整備局の備蓄物資を 民間船舶「はくおう」により輸送

関東地方整備局により川崎港東扇島地区基幹的広域防災拠点等に備蓄されていた支援物資が防衛省が契約している民間船舶「はくおう」により輸送され、被災地に提供されました。



被災地
支援

被災地を支援する 道の駅

道の駅「むかわ四季の館」



「道の駅」駐車場
車中避難者へ
毛布を提供

避難者を受け入れ、防災拠点として被災地を支援

道の駅「むかわ四季の館」は、地域防災計画における避難所として位置づけられています。北海道胆振東部地震では道内全域が停電しましたが、非常用発電機によりトイレ、研修室、携帯電話充電サービス等が利用可能であったため、避難所として開放し、被災地域の住民(最大時270人)が利用しました。※H30/9/6~11/11まで延べ5,431人が避難所として活用

給水活動



給水支援（厚真町）

平成30年9月6日から10月13日までの間、2市4町へ延べ185台の散水車(給水機能付き)により給水支援を実施しました。

厚真地区緊急対応

被災地
支援

タイムラインの取組

地震発生直後、厚真町において、関係機関と連携し、「台風・前線性の降雨等に伴う洪水・土砂災害等」を対象としたタイムラインの検討に着手。北上する台風第24号に対し、平成30年9月28日より緊急的にタイムラインを立ち上げました。

被災自治体橋梁の 緊急点検支援

橋梁緊急点検支援(安平町)

地震発生直後から、橋梁点検車により被災自治体(安平町、むかわ町、厚真町)の橋梁について緊急的に24箇所(point)の点検を実施し支援。

被災地
支援

「提供(国研)土木研究所寒地土木研究所」



液状化被害に関する
専門家チームの派遣
(札幌市清田区里塚)



専門家による 高度な技術支援

港湾災害専門家による苫小牧港被災施設の現地調査実施



復旧・復興

復旧・復興
に向けて

強靱化に向けて

「北海道開発局復興・強靱化推進本部」の設置

～ 着実な復旧・復興対策の推進に向けて ～

北海道開発局では、平成30年北海道胆振東部地震の発生(9月6日)から1か月が経過した10月5日付で、第8期北海道総合開発計画の着実な推進及び復旧・復興並びに国土強靱化を推進するため、「北海道開発局復興・強靱化推進本部」を設置しました。

会議では、北海道庁の「北海道胆振東部地震被災地域復旧・復興推進本部」の取組とも連携し、復興工事に関する情報交換、事業調整の取組に対する議論を行い、被災地の着実な復旧・復興に努めています。

北海道の復旧・復興及び国土強靱化を推進します

当面の取組

- ①被災した地域の復旧・復興状況の把握、対応及び調整
- ②被災による農林水産業や観光等の産業に関する全道及び全国への影響の把握、対応及び調整
- ③食と観光を担う生産空間の維持・発展など北海道型地域構造の保持・形成及び強靱な北海道の実現の推進
- ④「重要インフラの緊急点検」への対応



胆振東部地域における震災復興に係る連携

トップレベル

被災3町長との定期的な意見交換

安平町長、厚真町長、むかわ町長から直接、室蘭開発建設部長及び胆振総合振興局長が、定期的に町の実情を聴き取り、意見交換を行っています。

実務者
レベル

現地連絡調整会議

安平町、厚真町、むかわ町と国・道の担当者が各町の復旧・復興に関する動向を共有、国・道からは、支援・補助制度等の紹介を行うなど綿密な連携・意見交換を行っています。

※砂防事業による国土強靱化の推進、農業、港湾事業及び食や観光にの復興に向けた具体的な取組は次ページ(P22)以降に掲載しています。21

復旧・復興
に向けて

強靱化推進

災害査定

査定状況(平成30年10月10日)
一般道道 上幌内早来停車場線(厚真町)

速やかに災害査定を行い、早期の復旧を支援

道路、河川などの公共土木施設が自然災害により被害を受けた場合、被災した施設を管理する地方公共団体は、施設の復旧を行うため国土交通省に国庫負担申請を行います。

胆振東部地震により被害が発生した施設の早期復旧に向け、被災後約1か月という短期間で災害査定に着手し平成31年2月1日に終了、470箇所、約415億円の災害復旧事業費が決定されました。現在、早期復旧・復興に向け、復旧工事が進められています。

地震の影響により鵜川、沙流川、茨戸川、石狩放水路が被災



鵜川左岸KP0.7被災状況



鵜川左岸KP0.7本復旧完了

直轄河川 の復旧



鵜川左岸KP0.7 本復旧工事切り返し工施工状況
切り返し工:亀裂が発生した箇所を掘削し除去

特に鵜川では堤防に重大な縦・横断亀裂が発生したため、次の出水に備え緊急的な復旧工事に平成30年9月7日着手。24時間体制で実施し、堤防の緊急復旧を9月13日に完了しました。また本格的な出水期までの完成を目指し、堤防の本復旧工事を令和元年7月30日に完了しました。

直轄事業による復旧支援

復旧・復興
に向けて
強靱化推進



日高幌内川、チケツペ川、東和川の3河川を国直轄で推進

北海道勇払郡厚真町を中心に発生した土砂災害に対し、北海道知事からの要請をふまえ、新たに国直轄で土砂災害対策を推進。これに対応するため、平成30年10月に「厚真川水系土砂災害復旧事業所」を設置、平成31年4月に「厚真川水系砂防事業所」へ組織を強化しました。

大規模な河道閉塞が発生した日高幌内川における対策を推進するとともに、チケツペ川と東和川の河道内に堆積した不安定土砂等の再移動による二次災害を防ぐための緊急的な砂防工事を実施しています。

被災直後の状況



日高幌内川の緊急的な水路工の完成



復旧・復興
に向けて

強靱化推進

直轄砂防災 関連緊急事業を実施



河道閉塞箇所の掘削状況
(日高幌内川)

緊急的な砂防工事の実施状況

大規模な河道閉塞が発生した厚真川水系日高幌内川の緊急的な砂防工事に平成30年10月2日着手しました。

工事用道路造成を10月末、倒木処理等を11月末迄に完了、11月中旬に河道閉塞部を25m切り下げる掘削工に着手し、24時間体制で工事を実施しました。

平成31年3月26日に、融雪水を安全に流すための水路工が完成しました。



対策完了後の状況

令和元年5月13日撮影



砂防堰堤設置位置

被災直後の状況

対策の早期完成

また、チケッペ川、東和川においては、砂防堰堤建設のための掘削工に平成31年1月中旬に着手しました。

緊急的な対策として工事している3基の砂防堰堤の内、チケッペ川の1基は令和元年5月に完成。他2基の砂防堰堤についても、7月末までに完成しました。

復旧・復興
に向けて

強靱化推進

直轄特定緊急 砂防事業を実施



砂防堰堤嵩上げ状況
(コンクリート打設)

応急対策に引き続き、恒久対策を推進

日高幌内川、チケツペ川、東和川では、緊急的な砂防工事に引き続き、計画規模の砂防設備を整備するため、平成31年度より直轄特定緊急砂防事業に着手しました。

各工事は令和2年度より本格着工し、現在、令和5年度までの完成を目指して施工中です。

砂防堰堤の嵩上げ(チケツペ川支川チケエツブ川)



復旧・復興
に向けて

産業支援

地域農業の 持続・復興に向けた取組

勇払東部地区(厚真町)



パイプライン被災状況 (H30.9)



厚真ダム被災状況 (H30.9)

胆振東部地震により厚真ダムやパイプラインが被災しましたが、暫定的な用水確保を行い、令和元年春から営農が開始されています。

地域の基幹産業である農業の復旧に向けて、北海道や厚真町等と連携し、農業水利施設の本復旧を推進します。

厚真ダム復旧状況(洪水吐復旧)



(R3.7)

令和3年 水稻生育状況



(R3.8)

直轄災害復旧 事業を実施

復旧・復興
に向けて
産業支援

法面崩落により用水路が埋塞

新鷓川地区(むかわ町)

用水路被災状況 (H30.9)

水路の一部を函渠工で復旧

復旧完了 (R2.5)

新鷓川地区では、用排水路が被災しましたが、令和2年度に復旧を完了しました。



早来地区(安平町)

瑞穂ダム被災状況 (H30.9)

復旧工事完了 (R3.5)

早来地区では、瑞穂ダムの堤頂部が損傷し、令和2年度までに復旧工事を完了しました。

令和3年度は堤体の安全性を確認するため試験湛水を実施します。

道央用水地区(夕張市)

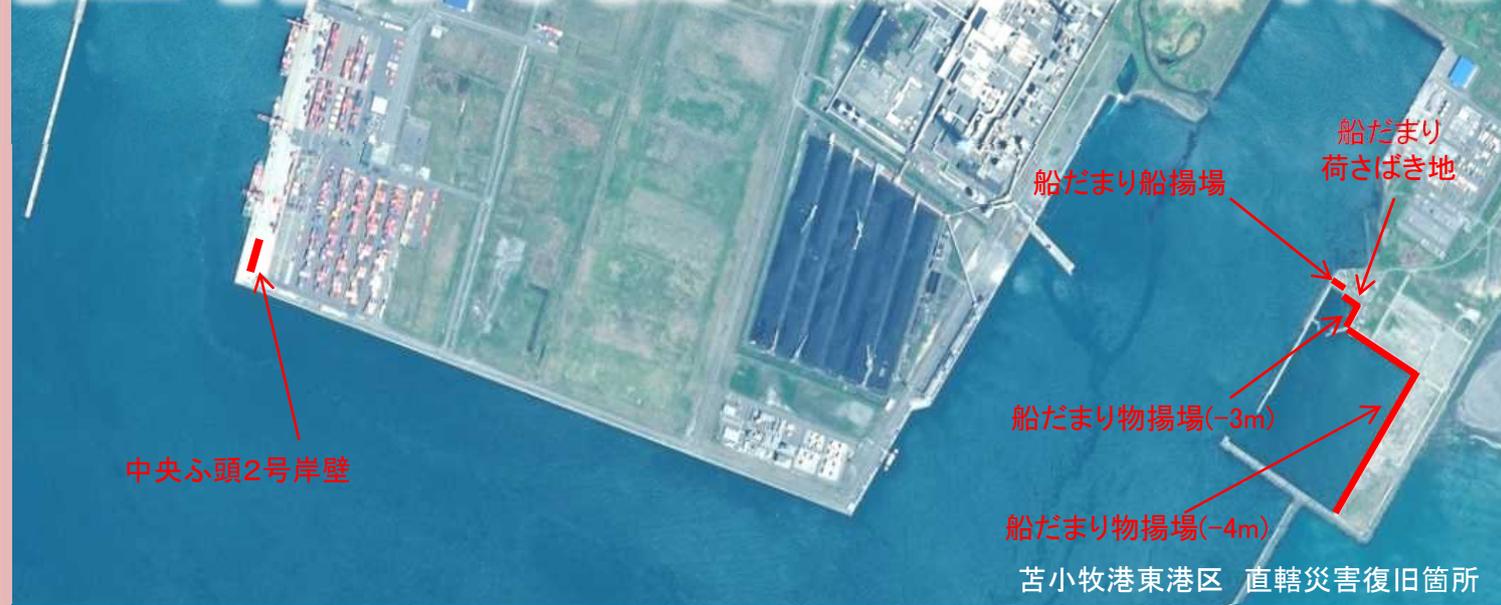
夕張シューパロダム被災状況 (H30.9)

復旧完了 (R元.11)

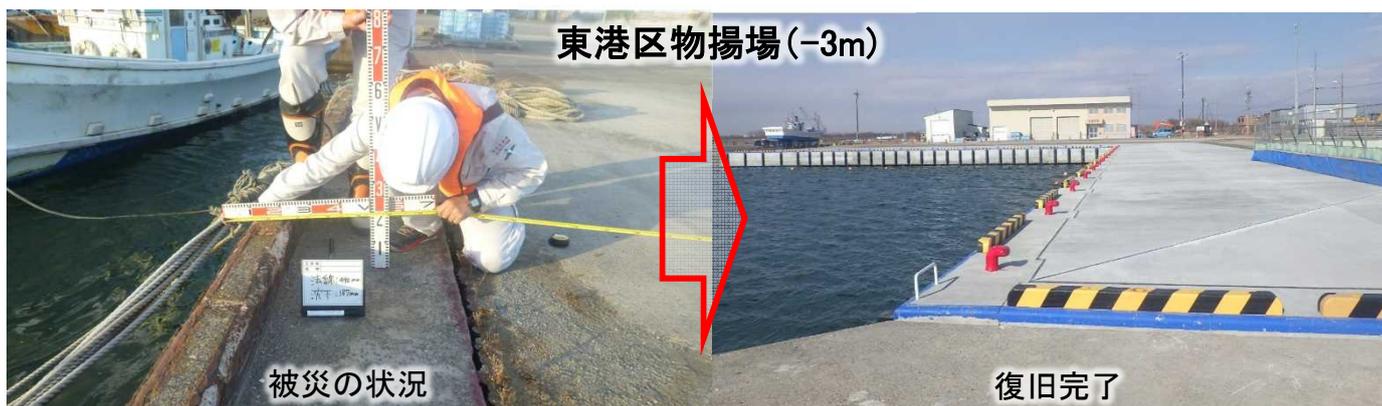
道央用水地区では、夕張シューパロダムの貯水池法面が損傷し、令和元年度に復旧を完了しました。

苫小牧港 直轄災害復旧状況

復旧・復興
に向けて
産業支援



地震により、岸壁及びエプロンの沈下・ひび割れ、岸壁法線の迫り出しなど、苫小牧港西港区2施設、東港区5施設に被災が発生。復旧工事は平成31年3月に開始し、令和2年7月に完了しました。



復旧・復興
に向けて
産業支援

海外輸出を通じた 復興支援の取組

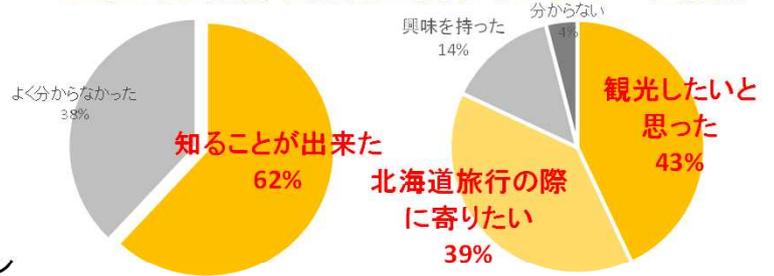


仕入の増加、新規取扱を開始した商品



じゃがバター とうもろこし ハスカップワイン

3町の知名度や観光に関するアンケート結果



台湾の北海道アンテナショップで、「北海道胆振東部地震復興支援フェア」(平成31年2月2日～2月4日)を開催、被災地の「食」と「観光」のPRを行いました。

会場は2千人以上の来場者で賑わい、来場者アンケートでは、約8割の方が「3町を観光してみたい」と答え、フェアを通じて東胆振地域の知名度向上に貢献しました。

販売事業者が「じゃがバター」や「とうもろこし」の仕入を増やし、「ハスカップワイン」の新規取扱を開始するなど、今後の販売展開に一層の期待感が生まれました。

道の駅利用促進による産業支援



賑わう農産物直売所「ベジステ」

(令和元年撮影)

(令和2年撮影)

蒸気機関車「D51」などの展示

(令和元年撮影)



復興のシンボル道の駅「あびらD51ステーション」は平成31年4月オープンから3年目。令和2年度は52.4万人が来場。新型コロナウイルス感染拡大防止措置として購買レジではソーシャルディスタンスの確保、休憩コーナーではクリアパネルを設置して営業。 29

復旧・復興
に向けて
観光支援

北海道観光の 復興に向けて

シーニックバイウェイ北海道と連携し、平成30年10月に東京・池袋で行われた「北海道まるごとフェアinサンシャインシティ」の観光PRブースにおいて、道内ほぼ全ての地域で観光客の受入に支障がないことの動画等での発信や、「秀逸な道展」として道内の魅力的な道路景観や食のPRを行いました。

北海道開発局は、地域のみなさまと一緒に、国内外に向けて北海道の元気を発信し、北海道観光の復興に取り組んでいます。

元気です
北海道

We are GENKI Hokkaido



Welcome!
HOKKAIDO,
Japan.

北海道銀行との連携により、平成30年11月に北海道内各地域からの動画(収集協力:シーニックバイウェイ北海道・北海道運輸局)を北海道銀行等の道内外の銀行800店舗以上で発信しました。

平成30年11月に外国人ドライブ観光客が多く利用する道の駅等10か所に「元気です 北海道」のロゴが入ったSNSパネルを設置し、国内外の旅行者による情報発信を促進しました。

シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺二セコルート
北海道千歳市支笏湖温泉

元気です
北海道



支笏湖は元気です

facebook

Michi-no-Eki Utoro Shirietoku
JAPAN-HOKKAIDO-HI-SHII

元気です北海道 / Welcome! HOKKAIDO, Japan.

#WelcomeHokkaido #元気です北海道 #北海道旅行 #シーニックバイウェイ北海道 #道の駅 #支笏洞爺湖 #支笏湖温泉 #UtoroShirietoku #支笏湖 #支笏快 #Shirietoko



Hokkaido 179 cities, towns and villages

いいね! コメントする シェアする



復興応援

パネル展開催による 復興支援



札幌市西区八軒 レンガの館



札幌市生涯学習センター ちえりあ

北海道開発局は各関係機関と連携し「緊急対応」、「被災地支援」、「復旧・復興に向けた取組」をまとめたパネル展を開催しました。パネル展を通じて、地域との連携、住民の防災・減災の意識向上に役立てていただくことを目的としています。

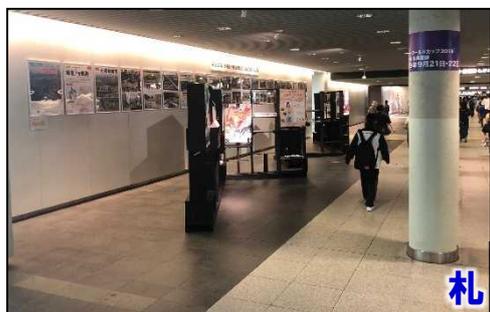


札幌ドーム(R元年9月)

被災3町の復興応援パネル展

震災を記憶にとどめ、被災地の復旧・復興を応援

また、地震発生から1年毎の節目において、震災を記憶にとどめるとともに、甚大な被害を受けた厚真町、安平町、むかわ町の復旧・復興を応援するためのパネル展を開催しました。



札幌駅前通地下歩行空間



北海道胆振東部地震復興祈念セレモニー



震災発生から1年を経過した令和元年9月6日には、日本ハムファイターズの試合に合わせて復興祈念セレモニーが開催され、震災当時最前線で復旧活動に当たった関係者が表彰されました。

厚真町からの情報

復興応援!

あつま国際雪上3本引大会（令和4年1月中旬）



厚真町から発信する新たなスポーツ『3本引き』。同時に3本の綱を使って行う綱引きで、2本取ったチームが勝利となる。体力はもちろんのこと、作戦やチームワークが重視される奥の深い競技です。

ランタン祭り・スターフェスタinATSUMA（令和4年2月上旬）



●ランタン祭り

メイン会場を中心に町内を無数のアイスキャンドルが彩る他、「ジンギスカンのランタン焼き」や「ラーメン早食い」を初め、数多くのイベントが楽しめます。

●スターフェスタinATUMA

厚真町の冬の風物詩。毎年恒例になった「巨大干支文字焼き」と、冬の夜空を彩る約2,000発の打ち上げ花火を楽しめます。会場では、餅まきや振る舞い酒などのイベントもあり、毎年多くの観光客でにぎわいます。

こぶしの湯あつま（通年）

こぶしの湯HP



厚真町にある温浴宿泊施設です。種類豊富なお風呂と、厚真特産の新鮮な素材が自慢のお食事で、優雅に安らぐ寛ぎの空間。ゆったりお風呂でのんびり気分♪日頃の疲れをリフレッシュしてください。ラドン湯・泡ぶる・打たせ湯・露天風呂・水ぶる・サウナなど多彩なお風呂をご用意しています。

大沼フィッシングパークと野営場（令和3年10月31日迄）



鯉沼地区にある大沼のフィッシングパークでは釣り（7月～9月）を楽しめます。釣れるのは鯉やフナなどの淡水魚。また沼のほとりには、野外炊事場や簡易トイレ水洗トイレ等の必要最低限の人工物だけが設置された自然を大切にしたいキャンプ場である大沼野営場があります。静かにゆっくりとキャンプを楽しみたいという方におすすめです。

特産品（他にもあります！

厚真町観光協会HP



お米



ハスカップ



あつまジンギスカン



ホッキ貝



まつかわ



ししゃも



安平町からの情報 復興応援!

道の駅あびらD51ステーションに『ポッポらんど』がオープンしました!

平成31年(2019年)4月19日に『道の駅あびらD51ステーション』がオープンし、令和2年(2020年)7月3日に来場者数100万人を突破!北海道じゃらん「道の駅満足度ランキング2021」第9位、トリップアドバイザー「旅好きが選ぶ!日本人に人気の道の駅ランキング2020年」第15位にランクインしました。

令和3年(2021年)4月29日に体験型の遊び場『ポッポらんど』がオープン!夏は「ふわふわドーム」で飛んで跳ねて不思議な感覚が味わえ、定期的にミニSLの乗車体験も開催。冬は「ちびっこゲレンデ」のそり滑りを中心とした雪遊びを味わえます。

道の駅には、観光情報、テイクアウトコーナー、特産品・ベーカリーコーナー、鉄道文化を伝えるレガシーギャラリー、農産物直売コーナーなど安平町の魅力を集結。併設される鉄道資料館では、全国屈指の静態保存を誇る蒸気機関車「D51 320」や『特急おおぞら』などで活躍した北海道仕様の特急車両「キハ183系」が展示されています。



道の駅あびら
ホームページ



道の駅あびらHP: <https://d51-station.com/>

早来中学校の再建に向けて

平成30年(2018年)9月に発生した北海道胆振東部地震により被災した早来中学校は、校舎が使用できない状況となり、現在も仮設校舎での学校生活を余儀なくされています。

本年7月から早来小学校との施設一体型校舎の建設工事が始まり、令和4年(2022年)年10月の完成を目指しています。令和5年(2023年)1月(3学期)から早来小と早来中が新校舎の供用を開始し、同年4月には安平小・遠浅小を含めた早来地区4校を統合した義務教育学校として開校の予定です。

早来中学校の再建に向けた費用の一部には企業版ふるさと納税を活用するため、国から地域再生計画「未来へつながる復興まちづくりプロジェクト」の認定を受けています。中学校の再建に応援いただける企業様を募集しています。



企業版ふるさと納税
ホームページ



左: 実施設計: 全体俯瞰イメージ

上: 教室をつなぐ

光のプロムナードイメージ

右: 仮設校舎

企業版ふるさと納税HP

<https://www.town.abira.lg.jp/chiikishinko/furusato-nozei-k>

安平町はこんなまち

◇名馬の故郷「馬がいる風景」

安平町は名馬「ディープインパクト」をはじめとする数多くの名馬を輩出している日本有数の名馬のふるさとです。どこまでも澄んだ青空の下、馬が自由に駆け回るのどかで広大な風景は町の自慢です。



◇「SLラストランの地」

明治25年の室蘭線・夕張線の鉄道開通以来、鉄道の要衝として発展してきた安平町は、昭和50年(1975年)にSLラストランがされた地として全国の鉄道ファンの間でも有名です。当時の車両は「安平町追分SL保存協会」により大切に保存され、現在、道の駅あびらD51ステーションで展示されています。



◇大地に広がる黄色のパノラマ「菜の花畑」

四季折々にいろいろな花が咲き誇る大地。その中でも初夏の菜の花畑は、自然が作り出す素敵な光景です。

菜の花畑は、連作による病害を防ぐため、毎年場所を変えて作付けされています。そのため、今年見られた場所で、来年も同じ黄色い光景が見られるというものではありません。



◇甘い宝石「アサヒメロン」

みずみずしく糖度の高い赤肉メロン「アサヒメロン」は安平町の特産品・北海道自慢のメロンです。寒暖の差がある気候が甘いメロンづくりに最適。土壌づくりと有機質肥料と合わせ、おいしいメロンが誕生します。

甘味がしっかり、そしてあっさり。これからもおいしいメロンを全国の皆さんにお届けします。



◇チーズ専門工場発祥の地

昭和8年(1933年)、日本で初となるチーズ専門工場が誕生し、地域の発展に貢献してきました。その灯は受け継がれ、現在でもカマンベールチーズをはじめとする質の高いチーズが町内の企業によって生産され、多くの方々に愛されています。



安平町ホームページ



安平町HP
<https://www.town.abira.lg.jp/>
ふるさと納税HP

<https://www.town.abira.lg.jp/chiikishinko/furusato-nozei>

ふるさと納税
ホームページ



むかわ町からの情報 復興応援!



むかわ町は、道央圏の南方に位置し、北海道の経済・文化の中心都市である札幌市や空の玄関である千歳市、海の玄関である苫小牧市にも近く、日高・十勝方面への交通の要衝にあります。

面積が、旧鶴川町が164.88平方キロメートル、旧穂別町が546.48平方キロメートル、合わせて711.36平方キロメートルであり、細長い地形をしています。

東西及び北部の三方が日高山脈系の外縁部に囲まれ、南部は太平洋に面し、全国でも屈指の清流度を誇る一級河川鶴川が南北に縦走しており、海・山・川そして平地と多彩な自然環境に恵まれています。

国内最大の恐竜全身骨格化石『むかわ竜』！！



国内最大の恐竜全身骨格化石『むかわ竜』。
学術名は『カムイサウルス・ジャポニクス』(意味：日本の竜の神)。

平成30年9月に発生した胆振東部地震では町が甚大な被害を受けたところですが、本化石は奇跡的に無傷であったことから、復興のシンボルとして活用し、町を活気付ける取組を進めています。

その『むかわ竜』は、2019年に東京、2020年に札幌、2021年に名古屋で開催された各イベントで展示され、全国各地の恐竜ファンや子どもたちなどから人気を博しています。

現在は穂別博物館に、一部を除いた全身骨格化石の展示をしていますので、ぜひご覧ください。

道の駅「四季の館」が充実しています。



道の駅「四季の館」には、温泉やホテル等が併設され、町外の方には観光の拠点として、町民の方にはトレーニング施設やプール、図書館など憩いの場として利用されています。物産館では、おみやげも充実。是非お立ち寄りください。

おいしい「ししゃも」が食べられます。



むかわ町のししゃもは、かつてアイヌの人たちに「神がくれた魚」として尊ばれ、緑豊かな森を育み、悠久に流れる鶴川とともに生きてきました。この貴重なししゃもを町の資源として未来永劫残していく町民の決意を象徴化するため、平成7年7月に開催された町100年記念式典で「町魚」に制定されました。

ししゃも漁が解禁となる10月上旬から町内には、すだれ干しが並びます。旬にしか食べることのできない寿司や絶妙な加減の生干しを焼いたものなど、本物のししゃもが味わえます。

町観光資源をPRするWEBページを開設しました！



2019年7月に国立科学博物館(東京)で開催された「恐竜博2019」をきっかけに、交流人口の拡大・関係人口の創出を目指す取り組みの一つとして、恐竜や化石をはじめとする町の観光資源をPRするWEBページを開設しました。

むかわ町の地場産品や食事・観光スポットを紹介しているほか、各映像もお楽しみいただけます。

むかわ町HP

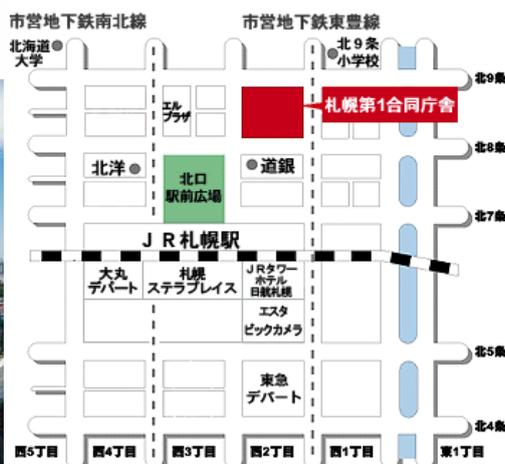


むかわ町ふるさと納税HP



平成30年北海道胆振東部地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。

平成30年北海道胆振東部地震に伴う災害対応状況
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/splaat000001e1uy.html>



札幌第1合同庁舎
住所 〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目
電話(011)709-2311

北海道開発局ホームページ
<https://www.hkd.mlit.go.jp/>

